

令和6年度第1回東京藝術大学特別講義（DOOR）受講感想【一部】

天草市立本渡看護専門学校

1年生 令和6年5月29日（金）1限目

2年生 令和6年5月30日（金）3限目

演題	児童養護施設出身者として生きる私のストーリー
講師	山本昌子（やまもと まさこ）氏 ACHA プロジェクト代表 1993年生まれ、東京都出身。 生後4か月から2歳まで乳児院、2歳～18歳まで児童養護施設、18歳から19歳まで自立援助ホームで生活した経験を持つ。 児童養護施設出身者の成人をお祝いするボランティア活動「ACHA プロジェクト」の代表を務める。2023年4月より子ども家庭庁居場所部会の委員を務める。

1年 ①

私は今回の講義を聞いて、自分の過去のことを積極的に周囲に発信していき、少しでも同じような境遇に置かれている人達のために、救いの場を提供できるように活動しているということに感銘を受けた。家に帰ってからも、配布していただいた資料を見て、虐待を受けていた人の気持ちや、大人になった現在の生活、どんな時にフラッシュバックが起きるかや、相談したことで良かったと思ったことや、対応が嫌だと思ったことなどを一つひとつ見てみることでできた。それを見て思ったことは、虐待を受けている方は、とても辛い思いをして、いつまで経っても、その辛さを忘れられないこと、そして、そういった人たちと向き合うことはとても難しく、だからといって、一方的にこちらから動いてしまうことは相手の気持ちを踏みにじり、良い方向に向かうことができということを感じた。自分は当事者ではないが、そういった経験をして、苦しんでいる人がいたとき、自分にできるサポートを、相手と相談しながら、良い方向に導けるよう、まずは虐待のことについて深く知りたいと思った。

1年 ②

私は、社会的保護で一時的な保護は約一割で、その後、トラブルが起こり、亡くなる方も多いということが分かりました。ニュースでも、時々見ることもあるけれど、職員の方はできるだけ家族の元でと思っているけど、何かあったらどうしようなどと葛藤があるのではないかと思います。その中で、色々なストレスが心と身体に負担をかけていると思うので、子どもだけでなく、職員のメンタルケアが大切だということにとっても共感しました。病院に来る患者さんも、病気だけでなく家庭などの悩みを抱えていらっしゃる人が多いと思います。悩みがあると身体にも何かしら影響があると思うので、身体のケアをしながら心のケアもできる看護師になりたいと思いました。

2年 ①

今回の講義を聞いて、山本さんの考え方、行動力、思い全てに感動しました。虐待がなくなるこの世の中で、実際に施設に預けられた子たちの成人を祝うため、振袖を提供したり、片親の子どもに対して、七五三を祝ったりなど、できないと思っている人が多い中で、このような活動がなされていることを知り、とても素晴らしい政策だなと感じました。親がいないと聞くと、世間からはかわいそうと思ったりする方もいますが、決して不幸せとは限らず、施設や里親で育ったからこそ、気付けることだったり、その分、思いやりを持つことができると思います。私も片親で育っていますが、片親だからこそ、できたこと、考えさせられたことが沢山あります。すごく興味深いお話だったので、これから自分にできることはないか考えながら、生活していきたいと思います。

2年 ②

今回の講義を受けて、児童養護施設だけでなく、乳児院や自立援助ホームがあり、現在は上限がなく施設に入ることができるということを知りました。山本さんたちは、振袖や袴が全国どこでも着られる環境を整備されていて、つながりの中で行っているということが、現在の環境はすごく整っていると感じました。また、山本さんたちは自身の過去の経験を生かして、いろいろな人の声を傾聴されていました。私も将来看護師になってから患者さんの声を傾聴し、私にできることを積極的に行っていきたいと思いました。

2年 ③

今、当たり前前に家族と一緒に暮らしているけど、それは当たり前のことではないのだなと改めて思いました。来年、私たちも成人式で振袖を着るけど、中には山本さんのように着られない人もいるということを知って、今の自分の環境にも感謝していきたいと思ったし、振袖を貸し出しているという、プロジェクトはとても素敵だなと思いました。多くの人の声を聞いて、活動の幅を広げていっているということを知って、多くの人の役に立ち、多くの人の支えとなるプロジェクトだと思いました。私も今回学んだように、看護という現場で、多くの人の支えになれるような存在になりたいと思いました。